

第 5 編 今後の対応

水質の一般項目は、環境基準A類型を満足しているものの、今後も継続的に調査を実施する。

健康項目は、今後有害物質を使用する工事がなければ終了する。

工事中の水質については、今後も継続的に調査を実施する。

底質についても、特に問題となる変化は認められないが、今後も継続して調査を実施する。なお、溶出試験項目については、全て基準値を満足し、有害物質は特に存在しないため調査を終了する。

道路交通騒音・振動は、周辺工事実施中で状況が変化しているため、状況が落ち着くまで調査を継続する。

建設作業時騒音は、法規制値をクリアしているものの、全体的に高めであり、引き続き調査を実施する。

建設作業振動は、全て規制値以内であり問題ないが、引き続き調査を実施する。

干潟地形は、継続調査を行う。また、新たに台風直後の地盤高の変化を調査する。

潮流は、事前調査として十分であり、全橋脚完成後に事後調査を行う。

鳥類の生息状況は、継続的に実施する。

鳥類の飛翔状況は、工事の進捗状況をみながらしばらくの間継続して調査を実施する。

繁殖状況は、コアジサシその他の繁殖について継続して調査を実施する。さらに過去の繁殖状況を把握するため、過去コアジサシが繁殖していた時期の干潟地形を調査する。

底生動物は、今後も継続的に調査を実施する。広域分布調査は努力量を増やし、新たにヨシ原調査を追加する。定量調査・生息環境調査はH15と同一の50地点で実施する。

昆虫調査は、今後も継続調査を行い、さらにライトトラップ等を用いた夜間採集等を実施し、全般的な昆虫相を把握する。

植物は、住吉干潟、河口干潟において、今後も継続調査を行う。

なお、新たな調査として、カキ礁と魚類についても実施する。

カキ礁は、P2直下流およびその他のカキ礁において調査を実施し、撤去の可能性・保全の必要性・移設の必要性について検討する。

魚類はタモ網、サーフネット、投網等によって任意採集を実施し、全般的な魚類相を把握する。